

5. 今月のトピックス 「水稲のスクミリングガイによる被害について」

本種は俗称ジャンボタニシとも呼ばれる淡水巻貝で、30 年程前に外国から養殖目的で導入され野生化したものと言われています。日本在来のタニシに比べて殻口部が広く、殻頂部がすくんだ形をしています (図 1a)。

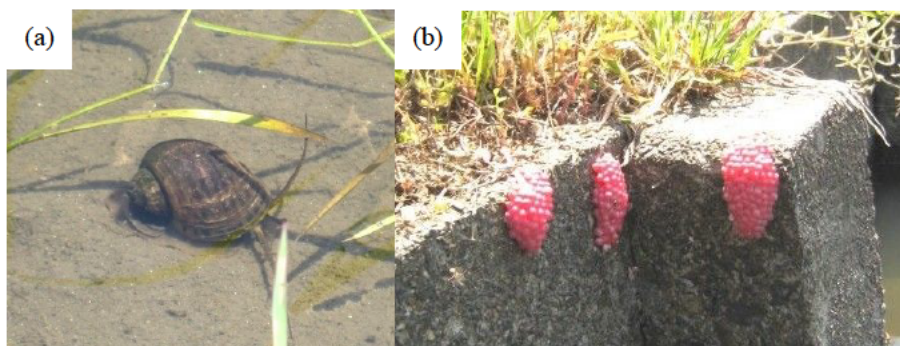


図 1 水田に侵入したスクミリングガイ(a)と水路に産み付けられた卵塊(b)
(津市雲出地域・三重県農業大学校 宮本啓一氏 原図)

◆三重県内での被害状況◆

本種は移植後の若い水稲の茎葉を食害して切断し、欠株をつくります(図 2)。三重県内では、主に伊勢湾や熊野灘に面した河口沿岸付近にある低湿田で、発生が確認されています。被害の発生は地域的ですが、水田の他、用排水路や河川にも生息するため、一旦侵入すると駆除は難しいです。大量発生した 2009 年には水田内の大半の株が食害を受けた事例もあります (図 3)。



図 2 スクミリングガイの食害による欠株被害の様子 (桑名市多度町)

◆生態と防除のポイント◆

本種は水温が 17℃より高くなると活動が盛んになるため、特に 5～6 月移植の水田では対策が必要です。生態の特徴を理解して効果的に防除しましょう。

1. 水田内への侵入防止：入水口に網(約 5mm 目合い)を張り、水路からの侵入をできるだけ防ぎましょう。
2. 浅水管理による食害の防止：田面を均平にして、水深約 3cm 以下を目安に浅水管理をすると食害が軽減できます。殻高 1～2cm の越冬貝は葉齢 6 未満の柔らかい苗を好むため、移植後 3～4 週間までは浅水管理に努めてください。
3. 貝や卵塊の捕殺：水田内および周辺水路の貝を直接捕殺しましょう。卵塊(図 1b)は水中に落とすかつぶして除去しましょう。
4. 冬期の耕起による越冬貝の防除：本種は耐寒性が低いため、厳冬期に水田を浅く細かく耕して貝を寒気にさらし、殻に傷をつけて死亡率を高めましょう。
5. 化学的防除：メタアルデヒド粒剤は移植後、本種を確認したら湛水状態(水深 3～5cm)で処理します。処理後 7 日間は湛水状態にして落水やかけ流しをしないでください。水田以外(用排水路など)には使用しないで下さい。
6. トラクター等農機の洗浄による拡散防止：発生地域で作業した農機に稚貝が付着して未発生地域に持ち込む可能性があるため、農機の洗浄を徹底しましょう。



図 3 大半の株がスクミリングガイの食害を受けた水田(鈴鹿市寺家町)